

— 市民がつくる市民のための地域環境情報誌 —

エコライフみしま

みんなで育て 未来へつなぐ 環境先進都市・三島



知っていますか？



市の鳥「カワセミ」



市の木「イチヨウ」



市の花「三島桜」

第 3 3 号
2019/5/1

- 特集「伊豆半島ジオパーク」・・・P2、P3
- 環境活動紹介(三島市ストップ温暖化推進協議会の環境紹介)・・・P4

南から来た火山の贈りもの～伊豆半島ジオパーク～



クイズ：以下の「〇〇」へ入る言葉は何番の言葉でしょうか？

三嶋大社は昔から伊豆〇〇と呼ばれ、崇敬されています。

- ① 大宮 ② 一宮 ③ 半島

(答えはP3へ)

伊豆半島が『ユネスコ世界ジオパーク』に認定されました!!

ジオパークとは?

「ジオパーク」とは、地球や大地を意味する「ジオ」と、公園を意味する「パーク」とを組み合わせた言葉で、大地が育んだ特色のある地域や場所を指し、「大地の公園」と表現されます。地域独特の地形・地質や文化、産業などを保護保全、継承、育成しながら教育・観光等の様々な分野に生かし、地域の持続可能な開発を促すことを目的としたプログラムでもあります。

この度、平成30年4月に伊豆半島がユネスコ世界ジオパークに認定されました。世界ジオパークとは、ユネスコの定める基準に基づいて認定された高品質のジオパークのことです。これとは別に、日本ジオパーク委員会が認定したものは「日本ジオパーク」と呼ばれ、平成30年9月現在、世界ジオパークに認定されている地域も含め、国内44地域が認定を受けています。

ジオパークでは、そのジオパークを特徴づける地形や地質的な見どころを「ジオサイト」として指定し、保護保全しています。例えば、火山や川が作った景観、岩石や化石の露頭、地震を起こす断層などがこれに該当します。ジオパークの見どころである「ジオサイト」に行けば、その地域の特徴的な地形、地質、歴史や文化などを広く学

ぶことができます。

エコライフみしま第33号では、地元環境に関する知識を深めることを目的として、市内のジオサイトや三島の地形の成り立ち、ジオサイトの環境保全活動についてご紹介します。

身近なジオサイトを紹介します

今回紹介するジオサイトは、皆様がよくご存知の、三島市が誇る有名な観光スポットでもあります。「ジオパーク」という視点で見ると、新しい発見があるかもしれません。

① 楽寿園・源兵衛川

楽寿園の小浜池は富士山からの湧水が湧き出ています。この湧水を中郷温水池まで送っているのが源兵衛川です。昭和30年代後半の高度経済成長期に湧水は激減しましたが、平成13年度から17年度に国・



源兵衛川

県・三島市によって親水公園として整備され、清流を取り戻しました。今の源兵衛川は、夏には子供たちが小魚やカニをとるなど、四季を通して動植物を楽

しめる川になっっています。

三島を訪れる観光客に最も人気のスポットです。

② 三嶋大社

「伊豆一宮」として、古くは伊豆諸

島の火山の噴火を畏れた人々から崇敬されてきました。山森農産の守護神である「大山社命」と福德の神である「積羽八重事代主神」を二柱とし、総じて「三嶋大明神」と称されています。

「三嶋大明神」の后神(妻)や御子神(子)は、伊豆七島で祀られており、伊豆半島や周辺地域の火山と深い関わりがあります。



三嶋大社

地域に住む人々が、伊豆諸島での火山噴火に畏れをもちながら、自然と共生してきた歴史を感じることが出来ます。

③ 菰池・白滝公園

三島駅南口から東へ約300mにある



伊豆半島ジオパーク IZU PENINSULA GEOPARK

菰池公園は、真菰(まこも)が多く生えた、のどかな湿地帯だったことから、この名が付いたと言われているです。

菰池公園から湧出した水は、楽寿園の東側にある溶岩に覆われた白滝公園の湧水と合流し、桜川の源流となっています。桜川は昭和30年代まで生活の水として使用され、子供たちの遊泳の場でもあったそうです。雨が降らない乾燥した日が続く厳冬の時でも、枯れることのない湧水があるのは、富士山の地下水が非常に豊富だということが言えるのではないのでしょうか。



白滝公園

④ 境川・清住緑地

市の西方の市街地近くにある約1万平方メートルの湧水地です。

200年前の富士山東斜面の大崩壊で、数百年に渡り、三島の南部・西部は御殿場泥流(土石流)に覆われました。このあたりでは、御殿場泥流の地層や土石流によって運ばれた大石を見ることが出来ます。4ヶ



境川・清住緑地

所の湧水口もあります。また、カワゴ平火口（天城山万三郎岳の北斜面）の噴火によるカワゴ平パミス（怪石）もみられました。地域住民中心の「境川・清住緑地愛護会」が、緑地の草刈り、境川の清掃を行っています。西小学校の児童による田植え、稲刈り、収穫祭、自然観察会等の環境活動も行われています。平成14年には「静岡県都市景観優秀賞」を受賞しています。

三島の土地の成り立ち

三島市を含む伊豆半島は、日本の他の地域とは異なり、フィリピン海プレートの上にあります。伊豆は200万年前〜100万年前の遠い昔、はるか南の海底火山でした。フィリピン海プレートはほぼ北へ移動しているため、火山活動と土地の隆起によって、海底火山が徐々に陸化し、約60万年前に日本列島にぶつかり一体化しました。この時、日本列島に「伊豆半島」が生まれたのです。

約40万年前から箱根と愛鷹の両火山が、約10万年前には富士山が活動を始めました。三島の土地の多くを占める北東に伸びる「丘陵地」は、箱根山のかつての噴火による火砕流が厚く積もってきたものです。

愛鷹山と箱根山の規模大な火山活動が終わった後、三島の南部に広がる比較的平坦な市街地はどのように形成されたのでしょうか。三島市在住の静岡県地学会東部支部長の増島淳氏の論文を引用してみます。

「三島市街地は、新富士火山の活動以前は、愛鷹火山と箱根火山の接する深い谷底であった。この谷は約1万年前の三島溶岩流によって埋め立てられたが、その表面は硬い溶岩層が露出する悪地であった。しかし、約200年前の御殿場岩砕なだれに伴う御殿場泥流が数百年にわたり現在の三島市街地を埋め立て、小浜山を除く大部分が土石で覆われ、やや南に傾斜する平坦地となった。」（増島淳、二〇一五、「静岡地学」第112号、「三島市街地表層に堆積する御殿場泥流起源の巨石」より）

現在の市街地は標高20〜30mあたりにもありますが、1万年前は現在よりも気温が低く、海面が数十m以上低いところにありましたので、急激に落ち込む深い谷底もあり得たのです。ここに三島溶岩は流れ下りました。三島溶岩は現在、楽寿園などで露出しているごく一部を観察できますが、市街地の地下深くには広範囲に広がっています。御殿場泥流は、約200年前の縄文時代の終わりの時期に、富士火山の東斜面が山体崩壊し岩砕なだれとなり、御殿場に堆積した大きな石や砂が、その後長い時間をかけて三島まで流れてきたものです。三島の市街地を掘るとたくさん出てくる大きな石は、富士火山から流れてきたものだったのです。

市街地はもととも深い谷底だったわけですが、三島溶岩流と御殿場泥流により埋められ、比較的平坦で湧水が豊富な人が住みやすい現在の土地になりました。

ジオサイトを守る〜環境保護活動〜

ジオサイトを通る川の清掃活動についてご紹介します。

①蓮沼川（宮さんの川）

「宮さんの川を守る会」を中心に毎朝清掃活動を行っています。

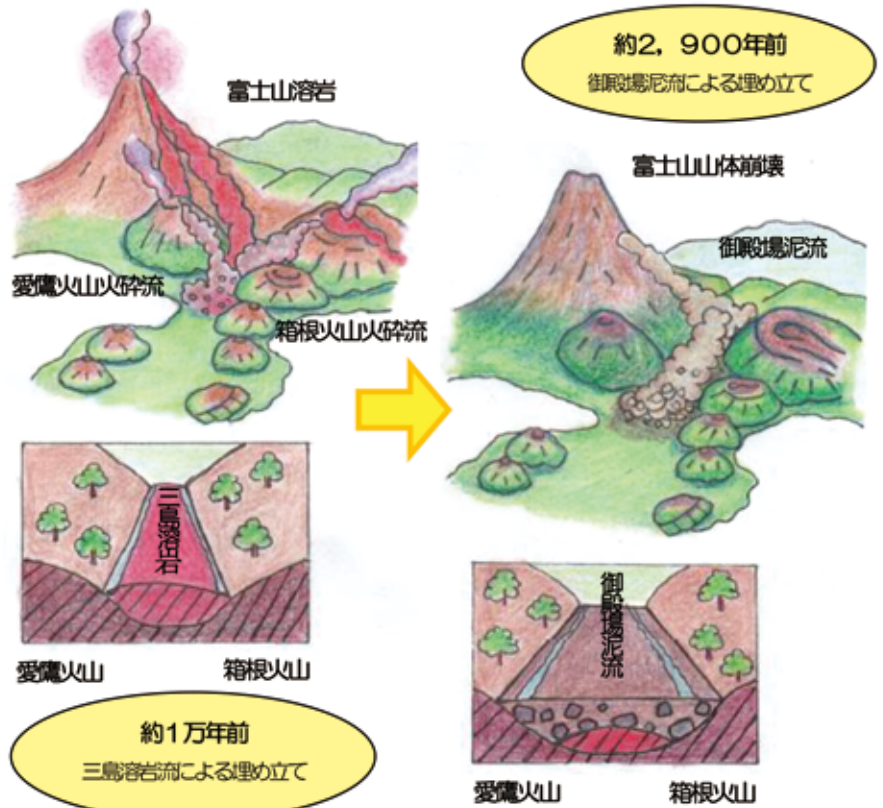
②源兵衛川

「三島ゆうすい会」「源兵衛川を愛する会」「三島市」など様々な団体が交代で川をきれいにする清掃活動等を行っています。

③桜川の清掃

「桜川を愛する会」を中心に毎月第一土曜日に川や白滝公園の清掃を行っています。

どの川も主にボランティアの方が清掃活動を行っています。メンバーの高齢化による人員の減少が問題となっています。



【表紙クイズの答え】

② 一宮

三嶋大社は「伊豆一宮」と呼ばれ親しまれています。一宮とは地域の中で、最も社格の高い神社を指します。

三島市ストップ温暖化推進協議会の活動紹介

三島市ストップ温暖化推進協議会は、家庭や事業所で取り組める地球温暖化対策について、その普及啓発を行うことを目的に平成21年6月に設立されたボランティア団体です。「百聞は一見にしかず、百見は一行にしかず」を合言葉に、様々な世代を対象にバラエティ豊かな活動を行っています。平成30年度には、地球温暖化対策の継続的な普及啓発活動が評価され、環境教育活動部門で「平成30年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰」を受賞しました。

子どもたちへの環境教育



自転車発電や手回し発電等体験型学習にすることで、子どもたちの興味をひくよう工夫しています。

自治会や学校等への講師派遣



約40種類の出前講座を用意しています。出前講座の依頼は、環境政策課までご連絡ください。

地域と連携した活動



毎年行っている「キャンドルナイトみしま」では、地域の企業や団体、大学等多くの地域の方と連携して開催しています。

今後も地球温暖化防止に貢献できるよう活動を続けていきます！



林会長 (右)
原田大臣 (左)

「H30 地球温暖化防止活動環境大臣表彰」受賞

活動拠点「エコセンター」での取組み



シャワーヘッドや照明、また、電気自動車や燃料電池自動車の模型等を使い、言葉だけではなく、見える化や体験を取り入れた講座を行っています。

今後も様々な活動の実施を予定しています。地球温暖化防止の活動と一緒に取り組んでみませんか。ご興味のある方は、環境政策課へ。

【編集後記】 取材を通し、三島の土地がフィリピン海プレート
のダイナミックな活動の結果として存在し、直接的には富士山の
活動で人が住める土地になったという特異性を改めて学習し認識
しました。このような悠久な地球の営みにロマンを感じるととも
に、我々市民はこの豊かな自然環境を後世まで残していかなけれ
ばならないという思いを強くしました。(し)

【編集スタッフ (市民ボランティア)】 青木博・飯田喜一・
岩田明彦・大村洋子・柴原俊介・武井功・西名秀芳・堀江紗代・
山本京二

一緒に『エコライフみしま』を作りませんか。
ご興味のある方は、環境政策課までご連絡ください。

第33号 (5月・10月の年2回発行)

平成31年5月1日発行

〒411-0858 静岡県三島市中央町5-5

三島市役所中央町別館

環境政策課内

「エコライフみしま」編集事務局

TEL:055-983-2647 FAX:055-976-8728

E-mail:kankyou@city.mishima.shizuoka.jp

エコライフみしまは再生紙を使用して発行しています。